

The noted article exhibition of SEKISUI MUSEUM

金重陶陽が慕った

川喜田

# 半泥子と茶の湯

の世界

— 石水博物館名品展 —

特別展 平成25年4月26日(金) — 6月23日(日)



●開館時間

10時～17時(入館受付は16時30分まで)  
月曜休館(4月29日、5月6日開館、同7日休館)

●入館料

一般700円 高校生500円

小・中学生無料

友の会会員200円

障害者手帳提示の方・付添者 無料

団体(20名様以上)、シルバーカード提示の方 2割引

●主催 財団法人 林原美術館、山陽新聞社

●後援 岡山県教育委員会、岡山市教育委員会

岡山県郷土文化財団、朝日新聞岡山総局

毎日新聞岡山支局、読売新聞大阪本社

日本経済新聞社岡山支局、産経新聞社

中国新聞備後本社、NHK岡山放送局

RSK山陽放送、RNC西日本放送

OHK岡山放送、TSCテレビせとうち

KSB瀬戸内海放送、oniビジョン、FM岡山

●ギャラリートーク

会期中の毎週土曜日14時から学芸員による

ギャラリートークを行います

●特別講演会

「川喜田半泥子と岡山—金重陶陽との交流を中心に—」(要事前申込)

日時 5月18日(土) 13時30分～15時

講師 龍泉寺由佳氏(石水博物館学芸員)

会場 岡山県立図書館 2F 多目的ホール 会費 1,000円

## 林原美術館

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15  
TEL (086) 223-1733 FAX (086) 226-3089  
<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

特別展 金重陶陽が慕った

川喜田

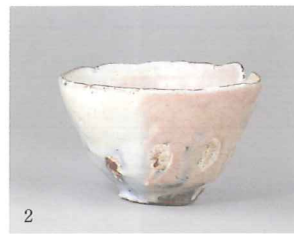
# 半泥子と茶の湯の世界

石水博物館名品展

The noted article exhibition of SEKISUI MUSEUM



1



2



3

このたび当館と石水博物館（三重県津市）で、所蔵する資料を交換展示し、特別展を開催することとなりました。

石水博物館は、戦前戦後に財界人として活躍した川喜田久太夫（1878～1963、号：半泥子）が、昭和5年（1930）に地域文化の振興と社会福祉活動の拠点として、三重県津市に設立した財団法人石水会館を母体としています。半泥子は実業家として成功を収める一方で、「東の魯山人、西の半泥子」と称されたように、多くの文化活動を支援するとともに、自らも陶芸を趣味とした人物として知られています。石水博物館は半泥子の志を受け継ぎ、昭和50年（1975）に登録博物館となってからは、地元へ根ざした展覧会を開催し市民の方々に親しまれています。平成22年には法人名を公益財団法人石水博物館に変更するとともに、半泥子ゆかりの千歳山（津市垂水）に新しい展示施設を新築し、平成23年5月に移転開館しました。

石水博物館の所蔵品は、江戸時代に伊勢商人の豪商であった川喜田家の旧蔵資料を中心としています。本展では、同家十六代当主であり、陶芸家としても知られる川喜田半泥子自作の茶道具類をはじめとし、半泥子と交流の深かった備前焼人間国宝の金重陶陽ゆかりの資料もあわせてご紹介します。これらに加え、古伊賀水指銘「鬼の首」（三重県指定文化財、桃山時代）といった茶道具や、曾我蕭白筆「山水花鳥人物図押絵貼屏風」、そして石水博物館外では初公開となる、半泥子が愛蔵していた江戸時代の浮世絵師写楽の肉筆画「老人図扇面」（展示期間：4月26日～5月12日）など、川喜田家旧蔵の珠玉のコレクションも展示いたします。

本展覧会を通じ、半泥子が造りあげた名品の数々と、川喜田家の当主が代々蒐集してきたコレクションの織りなす世界をお楽しみください。



〈半泥子愛蔵の写楽の肉筆画 館外初公開〉  
老人図扇面 写楽筆 江戸時代  
展示期間：4月26日（金）～5月12日（日）

1. 三重県指定文化財 古伊賀水指銘「鬼の首」 桃山時代
2. 粉引茶碗 銘「雪の曙」 川喜田半泥子作
3. 備前茶入 金重陶陽作 昭和十年代
4. 山水花鳥人物図押絵貼屏風（左隻）  
曾我蕭白筆 江戸時代



4

## 林原美術館

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15 TEL(086)223-1733 FAX(086)226-3089  
<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

\* 車椅子対応の設備あります。

交通/JR岡山駅から徒歩25分/路面電車[東山行]県庁前下車徒歩7分  
岡電バス[岡電高屋行]県庁前下車徒歩3分  
宇野バス[瀬戸駅前・四御神行]県庁前下車徒歩3分



次回予告 特別展「二次元 VS 日本刀展  
～温故十番勝負」  
平成25年7月13日(土)～9月16日(月)

このたび、当館と備前長船刀剣博物館、瀬戸内市立美術館の共催により、日本刀、刀匠、サブカルチャーアーティストたちの力を結集し、日本刀をテーマに特別展を開催します。当館では「温故十番勝負」と題し、サブカルチャーアーティストが、館蔵の刀剣の伝来をモチーフにした絵巻物や掛け軸などコロナ禍でコレクションした作品を作り、モチーフとなった収蔵品と共に展示します。本展を通じ、日本が誇る日本刀の文化と、現在それらに携わる人々の熱い情熱を感じていただきたいと思います。